

気候変動政策の米・欧・露・中・印 比較研究プロジェクト

**このホームページの目的**  
環境省地球環境研究総合推進費H-091「気候変動の国際枠組み交渉に対する主要国の政策決定に関する研究」の研究成果を発信いたします。

**Contents**

- ブリーフノート**  
定期的に情報発信します。  
国際的動向  
国際交渉や国連等の動向をまとめます  
米国の動向  
オバマ政権の下で気候変動政策にも動きが出てきています  
欧州(EU)の動向  
EU拡大の政策の一部として気候変動政策が導入されています  
中国の動向  
経済の急成長に伴い、新たな役割が求められています  
インドの動向  
途上国グループのリーダーとして独自の役割を果たしています  
ロシアの動向  
エネルギー資源を豊富に持つ国の気候変動政策とは？
- News**
  - 2010年2月16日  
国際シンポジウム「気候変動に関する国際枠組み—主要国によるCOP15の評価」が開催されました。  
講演者の発表スライドをダウンロードできます。
  - 2010年1月19日  
国際シンポジウム「気候変動に関する国際枠組み—主要国によるCOP15の評価」を開催しました。
  - 2009年12月2日  
「地球温暖化対策と資金調達—地球環境税を中心として」が財団法人地球環境研究戦略機関(COES)から出版されました。
  - 2009年11月26日  
ブリーフノート No.4 を公表しました
  - 2009年10月27日  
ブリーフノート No.3 を公表しました

日本長期生態学研究ネットワークデータベース

**15 個のデータベースが見つかりました。**

データベース	連絡先	詳細	キーワード
Annual water budget in Fukushima prefectural watershed, Fukushima, Japan (1998-1999), 1年間の水収支推定結果データベース (1998-1999)	Dr. Naoto Fukushima (Dr. N. F.)	Lab. of Forest Ecology and Stream Control Engineering, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, 東京大学大学院農学系研究科森林生態学専攻	annual water budget, 年間の水収支推定結果, 森林, 水資源, 降水量, 蒸発量, water yield, 水収支
Annual water budget in Fukushima prefectural watershed, Tokyo, Japan (1999-2002), 1年間の水収支推定結果データベース (1999-2002)	Dr. Naoto Fukushima (Dr. N. F.)	Lab. of Forest Ecology and Stream Control Engineering, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, 東京大学大学院農学系研究科森林生態学専攻	annual water budget, 年間の水収支推定結果, forest, 森林, 水資源, precipitation, 降水量, water yield, 水収支, target cutting, 目標伐採
Carbon change in broadleaf deciduous forest ecosystem, FY 2000-2002, Tokyo, Japan, 広葉樹落葉林生態系における炭素変動データベース (2000-2002)	Dr. Naoto Fukushima (Dr. N. F.)	Lab. of Forest Ecology and Stream Control Engineering, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, 東京大学大学院農学系研究科森林生態学専攻	annual water budget, 年間の水収支推定結果, forest, 森林, 水資源, precipitation, 降水量, water yield, 水収支, target cutting, 目標伐採

温室効果ガストレンドアップデート

**世界のCO<sub>2</sub>削減率における過去5日間の後方流跡線**

※ 2008年11月現在 (国境別)

解説:  
このアプリケーションは、2002年12月のデータを基に、アンダー10の国境別削減率を、ウェブブラウザのJavaを動かして表示し、アニメーションを伴ったグラフで表示し、アンダー10の削減率を比較対照として表示します。  
※ 削減率の計算には、国境別削減率を平均して表示します。  
※ 削減率の計算には、国境別削減率を平均して表示します。  
※ 削減率の計算には、国境別削減率を平均して表示します。  
※ 削減率の計算には、国境別削減率を平均して表示します。

曝露評価関連モデル&ツール

**曝露評価関連シミュレーションモデル&ツール**

はじめに  
環境省(旧)研究センター 曝露評価研究センター(旧)研究センターとして、曝露評価に関するシミュレーションモデルと関連ツールを公開しています。

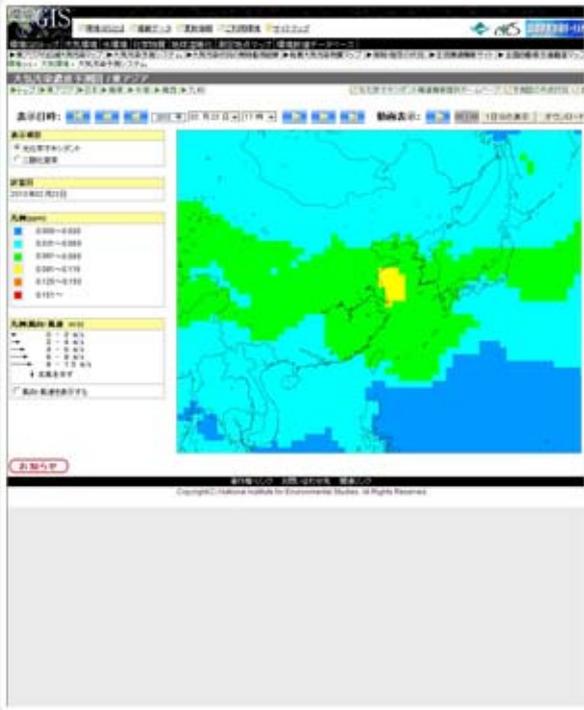
本ページでは現在以下のモデルと関連ツールを公開しています。

1. 化学物質の経路別地域分布を予測するための3次元曝露評価モデル G-CIEMS
2. 化学物質の経路別地域分布を予測するための3次元曝露評価モデルを内蔵した環境リスク評価ツール MuSEM
3. G-CIEMSの予測結果を基に、地理情報系を介して可視化するための可視化ツール
4. 化学物質の排出量の経路別地域別計算を実現するための曝露評価ツール

4つのモデルとツールは相互に関連しており、互いに補完的な役割を果たす場合があります。

図 公開モデルとツールの相互関係

## 大気汚染予測システム



## 自動車CO2排出量マップ



## 製品使用年数データベース

国立環境研究所 National Institute for Environmental Studies

製品使用年数データベース LIVES (Lifespan database for Vehicles, Equipment, and Structures)

本データベースは、国等の統計調査、研究論文、業界団体等の調査報告書等について報告されている製品の使用年数・寿命情報をレビューし、データベース化したものです。

日本をはじめとする16の国において調査・推定された1,352の使用年数・寿命分布データを収録しており、製品名などいくつかのキーワードからデータの検索を行うことができます。

使用年数データを検索する際は、ここをクリックしてください。

**データベース 使用上の注意**

- 本データベースに収録されている使用年数等のデータを使用する際は、元文献を確認の上でご利用ください。
- 特に、製品の使用年数等のデータには、様々な定義や種類のデータが存在します。データを使用する際は、そのデータの定義、分布の種類、推定方法などを確認し、適切なデータを選択するようにしてください。使用年数等の定義、分布の種類、推定方法などの詳細については、各説明ページおよび「本データベース」についての研究結果公表の文獻をご参照ください。
- データを利用する場合は元文献を引用するとともに、本データベースを利用した旨を明記するようしてください。例「元文献名などは、国立環境研究所による製品使用年数データベース(LIVES)を用いて検索した。」等。

**問合せ・追加情報の連絡について**

本データベースに関するお問い合わせは [Hispan@nies.go.jp](mailto:Hispan@nies.go.jp) まで。

(※個々のデータについての問い合わせなど、本データベースに直接関係しない事項については回答致しかねます。それぞれの出典を参照するなどの対応ください。)

また、本データベースは2006年3月までの作成版がレビュー、公開済みの情報をもとに作成されています。

## 温暖化影響総合予測プロジェクト(英語版)

温暖化影響総合予測プロジェクト  
地球環境研究総合推進費戦略研究課題 5-4

HPの目的  
環境省地球環境研究総合推進費 5-4「温暖化の危険な水準および温室効果ガス安定化レベル検討のための温暖化影響の総合的評価に関する研究」の研究成果を発信します

**Contents**

- 概要
- プロジェクトの概要について
- プロジェクトへの参加者
- 研究発表会
- シンポジウム・学会発表の開催情報
- 研究結果
- プロジェクトの成果発表の開催情報

**News**

- 2009年12月1日  
HPのデザインが変更されました。
- 2009年11月17日  
地球環境研究総合推進費-研究公開シンポジウム開催  
地球温暖化対策と日本への影響  
- 長期の気候変動シナリオと政策のリスクの軽減 - 2009年12月1日開催のご案内
- 2009年11月10日  
地球環境研究総合推進費-研究公開シンポジウムの決まりかけ  
「地球温暖化対策と日本への影響」  
- 長期の気候変動シナリオと政策のリスクの軽減 - 2009年12月1日開催のご案内
- 2009年11月14日  
研究結果公表  
地球温暖化の危険な水準に関する研究  
中期報告書(第1回)の公表のご案内
- 2009年11月10日  
地球環境研究総合推進費-研究公開シンポジウム開催  
「地球温暖化対策と日本への影響」  
- 長期の気候変動シナリオと政策のリスクの軽減 - 2009年12月1日開催のご案内
- 2009年11月2日  
第七回シンポジウム開催の開催案内
- 2009年11月2日  
記者発表  
地球温暖化対策と日本への影響-最新の科学的知見-
- 2009年11月2日

**Links**

- 京都大学 地球変動総合科学研究センター
- Asian-Pacific Integrated Model (AIM)

## 環境技術解説



## STEP UP! 環境学習: 探究ノート



## 地方環境研究所との交流



## 環境研究・技術開発の分野別取り組みマップ



## 研究者データベース

国立環境研究所 研究情報紹介

>English

**TASAKI Tomohiro**  
Senior Researcher

**田崎 智宏**

最終更新日時: 2018年 9月28日

氏名	田崎 智宏 (のさき ともひろ)
所属/職名	循環型社会・廃棄物研究センター(循環技術システム研究室)/主任研究員
電話	029-850-2988
研究課題	DR・廃棄物処理の評価とシステム解析
学位の種類	博士(工学)
専門資格	環境計量士(濃度関係)
専門とする学問分野	システム工学, 政策学, 工学
専門とする環境分野	リデュース・リユース・リサイクル(R3), 廃棄物管理, サステナビリティーサイエンス
自分の強みのキーワード	計画評価, 物質フロー分析, 廃棄物発生量推計, 一般廃棄物統計リサイクル法, 省エネ製品, 廃棄物管理, 廃棄物削減, 廃棄物管理, 長期使用
研究概要	<p><b>-リサイクル法制度の評価</b> リサイクル法制度の見直しに向けた制度の実証評価を行っています。モノ、カネ、ヒトというリサイクル制度の重要要素やこれまでに指摘されてきた問題点に着目して、多角的に各分野の実態を評価しています。これまでの主な成果には、家電リサイクル法の評価があります。いわゆる「見えにくいロー」を評価する研究も行っています。</p> <p><b>-DRの促進に向けた調査・解析</b> リデュース・リユース(R2)と称んでいます。廃棄物の発生量削減や長期使用がもたらす環境と資源への影響などを調査・解析しています。省エネ製品を賢く使えば、長期使用すべきかを消費者が判断するのに役立つ方法論の検討もしています。</p> <p><b>-持続可能な資源に係る制度開発</b> 日本の持続可能な資源についての現状を体系的に示す指標の研究を行っています。環境、経済、社会の3つの側面とその交わり部分に着目し、個人の視点や主観的要素、時間軸をより強く意識した指標は何かを探求しています。これまでに、各国等の持続可能性指標データベース化しています。</p>
URL	<a href="http://www.cycle.nies.go.jp/member/room3/tasaki_tomohiro/profile.htm">http://www.cycle.nies.go.jp/member/room3/tasaki_tomohiro/profile.htm</a>
所属学会	廃棄物資源循環学会, 環境経済・政策学会, 環境科学会, International Society for Industrial Ecology (国際産業エコロジー学会), 土木学会, 日本LCA学会, 日本評価学会, 日本計測行政学会, 環境社会学会

## 中学生のための環境学習会

国立環境研究所 National Institute for Environmental Studies

ホーム 調査情報 研究への取り組み データベース 刊行物 研究案内

ホーム > データベース > 中学生のための環境学習会

**中学生のための環境学習会**

国立環境研究所の研究者が、ついで市内の中学校生に、環境学習の講義を行いました。その内容を録音・編集したビデオをご紹介します。

タイトル	講師	時間	ビデオ(NWAV)
地球温暖化はなぜ起こる	江守 正孝	自時間00:54:10	<a href="#">(ダウンロード)</a>
富貴物質ガスと地球温暖化	向井 人文	00:54:40	<a href="#">(ダウンロード)</a>
私たちができる温暖化防止対策	広瀬 直希	00:52:16	<a href="#">(ダウンロード)</a>
生活と川や湖の水質汚染	水澤 元之	00:50:03	<a href="#">(ダウンロード)</a>
プラスチック・オイル等資源	中島 英彰	自時間00:54:03	<a href="#">(ダウンロード)</a>
大気汚染の建物への影響	森野 光子	00:51:17	<a href="#">(ダウンロード)</a>
大気汚染(大気中の汚染と環境を改善しよう)	大原 利雄	04:50:03	<a href="#">(ダウンロード)</a>

ビデオの閲覧にはWindows Media Player が必要で、Microsoft社のサイトからダウンロードしてください。

ダウンロードの際は、著作権に注意してください。

国立環境研究所 〒105-8505 東京都港区新橋1-3-1  
TEL:03-4320-2141 FAX:03-4321-4721 e-mail: [webmaster@nies.go.jp](mailto:webmaster@nies.go.jp)  
Copyright © National Institute for Environmental Studies. All Rights Reserved.

## トピックス

国立環境研究所 National Institute for Environmental Studies

ホーム 調査情報 研究への取り組み データベース 刊行物 研究案内

ホーム > 調査情報 > 研究への取り組み > データベース > 増える侵略外来種

**増える侵略外来種 多様な保全人の活動が鍵**

オオクワガタ(ブラックバス)、カシノクワガタ、アライグマ。もともとその地域にいなかったのに人間の活動で海外から入ってきた「外来種」が、急速に増えている。中には生態系や人の暮らしに悪影響を及ぼす「侵略的外来種」も。生物多様性保全のため来年十月、名古屋で開催される生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)に向け、外来種(生物)問題は重要なテーマになっている。

「日本は外来種大国」。国立環境研究所環境リスク研究センター(侵入生物研究チーム)リーダーの五箇さん(さん)はそう指摘する。

経済のグローバル化が進み、食料や原材料の輸入が急拡大して人の交流も活発化。外来生物が船などによって持ち込まれている。日本の野に生息する外来生物は分かれているだけで二千種を超す。

**◆オオクワガタ**  
シロクワガタやアマガサガタのように定着したものもあるが、要注意なのは沖縄や奄美大島に侵入したアメリカンクワガタのように地産の自然種に悪影響を及ぼす侵略的外来種だ。五箇さんが今後、国内への侵入を心配するのは南米産のクワガタ(アメリカンクワガタ)。北米、オーストラリア、マレーシア、中国、台湾などで増えている。

毒性が強くてオオクワガタ(クワガタ)といわれるほど、刺されると全身が赤く腫れ上がる。米国では年間約10万人が刺され、百人中5人がアレルギー一症状で死亡する。五箇さんは「日本に侵入すると、害々々のお花見ができなくなる恐れがあると警鐘を鳴らす。

**◆クワガタ対策**  
日本人の世界的消費もある。「外国のいない生きものを輸入し、飼育する文化がある。珍しい生きものを飼いたがる富層は世界一」という。

その強固な事例がクワガタだ。1980年に4種類の輸入が許されていたが、今は700種以上が輸入可能になっている。年間の輸入個体数は百万匹を超す。

## 研究の現場から

国立環境研究所 National Institute for Environmental Studies

ホーム 調査情報 研究への取り組み データベース 刊行物 研究案内

ホーム > 調査情報 > 研究への取り組み > データベース > 研究の現場から

**研究の現場から**

国立環境研究所では、研究の成果を各種の雑誌等でわかりやすく発信しています。ここでは、関係者の了解を得て、その内容や関連するサイトなどを紹介します。

**第14回**  
生物多様性条約マングローブ林の保全  
アジア自然生研究グループ  
国立環境研究所研究員 村上 智美

関連ページ  
・国際条約・マングローブと環境問題  
・公開シンポジウム2007 - エコシステム・水辺に生きる植物たちのはたらき(PDF)

**第13回**  
リモートセンシングを利用した、絶滅危惧種の分布マップ  
生物多様性研究センター  
生物多様性研究員 石澤 光子

関連ページ  
・生物多様性の持続可能な利用と生物多様性の保全に関する研究(生物多様性条約) 公開シンポジウム2007 森林分枝化がもたらす林床環境の改善(PDF)

**第12回**  
中国の水環境の現状と日本からの技術協力支援  
アジア自然生研究グループ  
アジア水環境研究センター研究員 水澤 元之

関連ページ  
・国際条約・水2007 目標1ターゲットによる環境向上の水環境改善に向けた国際協力支援  
・環境(野鳥)バリエーションエコロジー(アングロ)環境向上型の水環境改善(PDF)

**中国農村部での分散型生活水処理技術協力**

自治体での実施した生活水処理技術協力  
「江蘇省水環境改善プロジェクト」